

いちご復活と東北一の産地復興へ 農業と「いちご」の生産

山元町の基幹産業は農業であり、温暖な気候と恵まれた地の利を活かし、いちごやりんご、水稻など、四季折々の農作物が栽培されています。

特に「いちご」については、農家の長年の努力により、町を代表とする特産品として、「仙台いちご」の名で全国へ出荷され、町全体の農業生産額の約5割を占めるなど、農業を牽引する役割を担っていました。



いちご復活と東北一の産地復興へ 東日本大震災による被害

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、想像を遥かに超える巨大津波を引き起こし、町土の約 4 割を飲み込みました。

堆積したガレキや塩害により、約 6 割の農地が耕作不能となり、いちご農家については、129 戸のうち 125 戸が被災し、生活の基盤である栽培施設をすべて失うなど**壊滅的な被害**を受けました。



いちご復活と東北一の産地復興へ 「いちご」産地の復興再生

いちご生産施設の復旧にあたっては、経営の合理化や優良農地の集約等を目的として、町内4か所の「いちご団地」を整備しました。

また、若手が中心となり「農業生産法人」が設立され、独自の販路開拓や商品の開発などの取り組みが広がりを見せています。

これまでの「仙台いちご」としての系統出荷に加え、法人の設立や販路の開拓、加工品開発などの動きが活発化したことで、いちごの一大産地として新たな一歩を踏み出しました。



いちご復活と東北一の産地復興へ 「やまもと夢いちごの郷」オープン

平成31年2月、生産者の所得向上や交流人口の拡大による地域振興を図るため、農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」がオープンしました。

特産品である「いちご」＝「山元町」と感じてもらいたいとの想いを込めて名付けられたこの施設は、「いちご」をはじめ、町内の特産品が揃う待望の施設です。



直売所が取り扱う「いちご」は、市場に出まわるものとは異なり、ハウスで熟した「いちご」を生産者が摘んで直接出荷する、甘くて美味しい「完熟いちご」です。

毎年12月から6月上旬頃までの旬の時季に、様々な品種や生産者の「いちご」が並びますので、好みの「いちご」を見つけてみてください。

